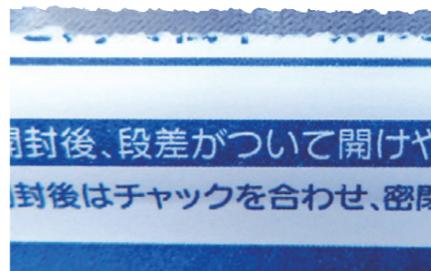


# モーラス®パップの改良

経皮鎮痛消炎剤モーラス®パップは、カオリン(白色粘土)を使った湿布剤を改良し使用感に優れた製剤として1988年に発売しました。それ以来、多くの方々から、もっと開けやすくもっと貼りやすくしてほしい、薬袋の角が痛くないようにしてほしいなど数多くのお声をいただきました。技術上難しいご要望もありましたが、使いやすい身近な医薬品になるように、今日まで数々の改良を重ねてきました。

## 開封しやすく



開封口に導入したミシン目

発売当初の薬袋には、開封性を向上させる切り目がなかったため、開封口が不規則に切れていました。そこで、薬袋にミシン目を入れて直線的に切れるようにしました。

また、開封口の表裏が重なって開けにくいというご意見に対して、表裏のフィルムの高さに段差をつけて開封できるよう改良しました。その結果、簡単に開封口を掴めるようになり、年配の方でも容易に開封できるようになりました。この改良は、特許を取得し、他の商品へも展開しています。



開封口に段差が生じ、端が掴みやすくなりました

## 簡単・きれいに



中央にミシン目を入れた剥離フィルム

多くのお客さまから、貼付剤を簡単に貼れるようにして欲しい、特に、フィルムを剥がした時、粘着面がくっついてしまうのを防いで欲しいというお声を数多くお聞きしました。その解決策として、フィルムの中央を剥がして貼付した後、左右のフィルムを剥がす方法、いわゆる「バリピタ」(センターカット)という貼付方法をご提案しました。

この方法で、粘着面どうしの付着という問題は少なくなり、また貼りたい箇所にピタッと貼ることができるようになりました。



剥離フィルムを左右に引っ張り、貼付面を出して貼付します

## 剥がれないように



角を丸くした薬袋・貼付剤

剥がれないように付着力を高めると剥離時に痛みが大きくなります。「貼っている時にはしっかりと、剥がすときには簡単に、痛みもない」という相反する要望に対し、「剥がれ」のしくみを研究し、角に丸みをつけることでお応えしました。

また、厚手のフィルムを使用している薬袋の角が肌に当たると痛いというお声を聞きました。

このお声に、薬袋の角を丸くすることで薬袋による不快感を緩和しました。

## 保存しやすく



チャックを導入した薬袋

モーラス®パップは、使用した残りを薬袋に入れて保管していただきますが、発売当初、開封口は折りたたんで封じるタイプになっていました。しかし、封じが不十分な場合、未使用の貼付剤の品質低下が懸念されることから、医薬品では初めてとなるチャック付き薬袋を導入しました。

この改良で、使用後の密封が容易になり、最後まで安心してご使用いただけるようになりました。

モーラス®パップの薬袋は長方形で、短辺側を開封口にしていたのですが、柔らかいモーラス®パップは出し入れしにくいという課題がありました。この課題に対し、長辺側を開封口を変更して間口を広くしました。



長辺側を開封口にしたモーラス®パップ

お客さまのお声にお応えできるよう取り組んできた結果、モーラス®パップの改良は発売以来25回を超えました。技術や品質といった作り手としての概念ではなく、お客さまの視点から取り組んできた結果、「バリピタ」(センターカット)という貼り方や、開封口の段差というイノベーションにつなげることができました。

これからも、お客さまとのコミュニケーションを大事に、新しい技術、改良に取り組むことで、世界の人々のQOL(生活の質)改善に役立つ商品づくりに挑んでいきます。